

余暇のひととき

文化協会より

俳句

△あんず句会▽

手の甲にメモとる少女ダリア咲く
青柿たわわ頤を押し通す
人生はジクソーパズル秋深む
コスモスの群れて淋しさまさりけり
あやすよに母に声かけ良夜なる

阿部 貞子
岩崎 光子
土居 禮子
三瀬 泰子
渡辺 富美恵

△かんな句会▽

酒蔵の奥より走り柚子匂ふ
からす瓜ゆらり煩惱ゆれ止まず
銅山の一夜の宿や銀河濃し
噛み合わぬ齢やすいつちよくつわむし
半日の旅や大きなポポーの実
望郷や鶏頭の赤一枝活け
澄みし水笑顔の吾を映しけり

岡村 文雅
岡村 澄子
片桐 八重子
川崎 敬子
酒井 佳子
木熊 公子
永田 三圃

△まゆみ句会▽

栗の皮剥いてこの世に飽きずるる
秋は来ぬ少し陥る自己嫌悪
栗拾ふ指のふしくれ喜寿となる
木洩日やしめぢ初茸茸籠に
逝く人の歳月桜蓼揺るる
父の木に三日の月のかかりけり
秋深みけり手鏡に妣が棲む

梶原 征子
鴨田 レイ子
楠本 照美
高田 千恵
大上 初美
福島 厚子
山根 築子

川柳

△吉田川柳会▽

出られない心の扉小さくて
内緒話ばれてしまった遠い耳
知らぬ間に秘密を洩らす隙間風
腰痛が生きていること感じさせ
挨拶の次転ぶなど声かかる
先人の知恵が生み出す町おこし

赤松 委沙子
加賀山 一興
金子 すすむ
日野 厚生
薬師寺 絹子
米子 達雄

△川柳鹿の子吟社▽

年金で見栄も包めぬのし袋
親しいが故に守っているルール
聞く方も分かつてはいる反抗期
八十路来て後はおまけと好々爺
花畑蝶の踊りが色を添え
胃袋と元気な口で未だ死なず
子を守る猫の姿に教えられ
ハンドルの若さカーナビ黙らせる
急ぐまい終着駅はもう近い

岩根 長江
上田 島都
男武 志津江
河野 秀夫
志摩 佳聲
中村 地青
松本 志津子
森 ひさし
渡辺 勝弘

短歌

△吉田短歌会▽

われを置きて友また一人逝きにけり落ちて止まざる百日紅かな
ゆづられし亡母の丸帯結ひたればやさしき母の匂ひしみ入る
満潮の海ふくらめばぎいぎいと小舟はきしむ息吹くごとく
山門をくぐれば匂ふ木犀の花ふたつ三つ関ヶ原に浮く
草紅葉踏み分けて行くその先に時間の止まりし生家まだあり
伊豫路たく磨

脇口 定稔
奥平 美代子
加賀山 愛
岡田 幸子